

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)	◎	百貨店（店長）	来客数の動き	・前年比で来客数が2けた増を継続している。また、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年度の来客数を上回っている。
	◎	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・宿泊部門は全国旅行支援が始まり、システムがダウンするほどの動きが出て、稼働率も90%を超えて高稼働となっている。料飲部門でも会合や宴会等の予約が入り始めている。
	◎	都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・全国旅行支援が始まる前から単価アップに努めており、販売価格を上げているが、客から受け入れられていると考えている。
	◎	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・全国旅行支援がスタートし、宿泊については売上、稼働率が大幅に伸びている。料飲部門も小規模ではあるものの、宴会予約が入り始めている。
	◎	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・全国旅行支援が開始され、シニア層も含め来園者数が増加している。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・10月11日から全国旅行支援が始まり、当店が位置する観光地では、今までの自粛ムードが一変し、人の動きが活発になっている。
	○	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数減少の影響か、来客数は徐々に回復してきている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・現在は、全国旅行支援の宿泊客が多く来ている。また、県外並びに日帰り客も多い。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月は前年比106%、前月比で108%と好調に推移している。好調な商材はエアコンで130%、また、季節商材全般も好調である。好調要因の1つに、商材価格の値上げがある。
	○	乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・当地は観光地を控えているので、新型コロナウイルス対応の行動制限緩和や紅葉時期ということで、かなりの観光客が来ている。観光客を迎えるレストランやドライブイン、ホテル等の従業員が軒並み口をそろえて「やっと景気が良くなる状況になってきている」と言っている。その方たちが良くなれば、当社も自動車販売や修理部門で恩恵に預かるので、何となく良くなっている感じはする。
	○	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・特に際立った良い動きや悪い動きはないが、来客数や人の動き等が、多少は販売量につながったと思われる。数字からして、やや平年並みに戻りつつある。
	○	その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	来客数の動き	・久しぶりに、全国旅行支援や新型コロナウイルス感染症対策が緩やかになってきているので、今月は来客数が増えた店舗がある。このまま感染状況が落ち着いて、行動制限も緩やかなままでの前提条件だが、少し良い傾向に向かっているようである。不安な点は、ウクライナの状況で、円安による仕入値の上昇がひどく、低価格帯の商材の入荷が悪くなってきている。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・相変わらず、2人客の来店率が高いが、8～9人の予約も入り始め、小宴会は復活し始めているように思われる。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・団体の宴会が増えてきている。
	○	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・全国旅行支援が始まり、旅行業界は忙しさを取り戻している。ただし、儲かっているとは感じられない。
	○	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の継続的な減少と、再開した全国旅行支援による来訪者の増大で、やや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	それ以外	・当社でも、2010年以降で一番多いボーナスを支給する予定で、やや良くなっている。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・夜の動きは良くないものの、昼の動きが良かったので、新型コロナウイルス感染症の発生前の同月と比べて、4%の増収である。
○	ゴルフ練習場（経営者）	お客様の様子	・全国旅行支援により、地方のホテルや旅館は、年末まで予約が入っているようである。	

○	設計事務所（所長）	それ以外	・県内で国体が開催されたことや、紅葉目当ての観光客で人流が多くなっている。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・ウクライナとロシアの問題で、世界中がインフレに直面しているなか、急激な円安と物価高には全国旅行支援の政策も焼け石に水のように、旅行に出かける話は聞こえてこない。
□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・今月も新型コロナウイルスの新規感染者数が減ってきたかと思うと、また増えている。全国的に同じような状態だと思うが、地区のイベントもなかなか開催することはできない。大型店への人出は少ないようで、我々のような小売店も、それに準じており、回復は難しい。
□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着き、全国旅行支援の開始や海外からの入国者数上限撤廃等、外出への機運が醸成されつつある。来客数は前年と比べてプラスに推移しているものの、中間層では円安、物価高による生活防衛意識の高まりが見られ、売上は伸び悩んでいる。
□	百貨店（店長）	販売量の動き	・販売量の動きは前年比では若干マイナスとなるものの、2019年比では10%減となっており、景気回復までには遠い。
□	スーパー（商品部担当）	単価の動き	・既存店ベースでの数値は、前月同様の状況が続いている。イベントや全国旅行支援が始まり、一部にはクーポン利用での客単価上昇がみられるものの、値上げによる単価アップで、買上点数の減少は変わらない。
□	衣料品専門店（統括）	販売量の動き	・街なかにはいろいろとイベントが増えてきている。ただし、人出はあっても、なかなか買物に回る人は少ないようである。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・半導体不足の影響も少し変化してきたが、いまだ遅延は発生している。
□	住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・来客数の低下傾向は今月も変わらず、前年を下回っている。買上点数も低下傾向にあり、値上げによる単価の上昇で少し相殺されているものの、補うまでには至らない。
□	その他専門店（総務担当）	お客様の様子	・来客数が変わらない。
□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・少人数のグループでの飲食は、少しずつ増えてきている。
□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・物価上昇の影響なのか来客数は減っているものの、客単価が値上げ分以上に良く、売上の的には変わらない。ただ、様子を見てみると、余裕のある人は来店してたくさんお金を使い、余裕のない人は来ないように感じる。
□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・値上がりは仕方ないという意識は定着しつつあるようだが、出費を抑えようという感じも変わらずにある。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は落ち着きつつあるが、街のにぎわいは全く変わらず、ひっそりとしていて、タクシー利用客は、相変わらず少ない。都市部では利用客が増えているようだが、羨ましい限りである。地方では、あと1～2年は掛かりそうである。
□	通信会社（社員）	単価の動き	・物価上昇を懸念している。
□	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・物価高騰により、消費が抑制されていると感じる。
□	通信会社（局長）	お客様の様子	・客が「価格高騰が家計を圧迫してきている」とこぼすようになっている。クーポン等を利用してながら対応しているが、情報が行き届いていないように感じている。
□	競輪場（職員）	来客数の動き	・来場者数に大きな変化はない。
□	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・来店数は増えないものの、インターネット予約は増加している。横ばい状態が続いている。
□	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・9月までは土地購入の問合せが多かったが、10月に入ってから減少している。

	□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・引き合いはちらほらあるが、なかなか成約には結び付かない。問合せも若干増えてきたかと感じているものの、貸店舗等も成約には至らない。
	▲	一般小売店〔家電〕 (経営者)	販売量の動き	・商材価格や諸物価の高騰と、円安の影響で、客の財布のひもはかなり固い状況になっている。
	▲	百貨店(営業担当)	単価の動き	・円安物価高の影響と賃金の上昇が伴っていない状況なので、客の生活防衛意識が強まる傾向にある。
	▲	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・客単価の大きかった夜の来客数が、大きく落ち込んでいる。リモート勤務体制が来客数の回復を妨げている。平日の日中の来客数は前年並みで推移し、現状維持がやっとなである。
	▲	家電量販店(営業担当)	販売量の動き	・電器暖房等の動きは前年比110%と出だしは良い。他の白物家電は90%前後で推移している。黒物家電も映像商材を中心に85%程度で、苦戦している。
	▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・円安の進行で物価がじりじりと上がって来ている。近隣の大規模小売店の来客数も変わらずコロナ禍前の65%程度なのではないか。自動車販売も低位安定が続いており、明らかに購買意欲が逡巡している。
	▲	住関連専門店 (店長)	来客数の動き	・物価上昇や円安を踏まえ、客の来店頻度が減っており、買い控えが進んでいる。
	▲	その他飲食〔給食・レストラン〕 (総務)	単価の動き	・全般的な景気動向は、人流の活発化により持ち直しの傾向が見られる。ただし、主力の事業所給食は、売上が安定して推移している一方で、食材費や経費の上昇があり、収益を圧迫し始めている。今後は、人件費の増加も予定されているが、委託費や食単価等、取引条件の見直しを交渉しているが、年度替わりの時期からといった形で先送りになることも多く、当面収支が下押しされるとみている。
	▲	通信会社(総務担当)	それ以外	・大型店舗に臨時ブースを設置する等の対策をして、販売量を前年同月並みに維持している。
	▲	美容室(経営者)	販売量の動き	・米FRBの公式議事録に、「米国内のインフレは日本の金融緩和が一因だ」と名指しされ、慌てて介入すればヘッジファンドの思うつぼ。政策を間違えたと思えば、即時に体制を変える柔軟性が、英国が今も世界に君臨する理由だろう。
	▲	その他サービス〔自動車整備業〕 (従業員)	お客様の様子	・何も変わらない。
	▲	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕 (営業)	お客様の様子	・リフォームの問合せが止まってしまっている。原材料高などを含めた総工費の高騰や、昨今の円安報道等により、生活防衛意識が強まっている。
	×	衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・客が本当に出てこないのが、あの手この手といろいろ試行錯誤しながらやっているが、やはり、安全な環境づくりが第一だと思う。今の政治を見ていると、国の方向性というか、国民の安心安全をきちんと守ってくれる方向に向かっていない。また、政策が具体的に何も出ておらず、それがイライラの原因になってしまっている。さて、どうしたらよいのかという状況である。
	×	その他飲食〔ファーストフード〕 (経営者)	販売量の動き	・当社は飲食店を20店舗ほど経営している。販売価格は変更していないが、このところ販売が前年比15%ほど下がっている。
	×	都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症対策で、脱マスクが浸透しない限り、レストラン、宴会等、外食産業に客は戻ってこない。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
(北関東)	○	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・10~11月と、段々受注が増えてきている。現状では全般的にいろいろな得意先で増えている。
	○	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今月だけの話だが、いろいろな取引先で受注や販売量等が若干増えている。ただし、来月はまた減少しそうだ。
	○	輸送用機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・生産量は増加しているが、コロナ禍の減産期に人員を削減したため、人材確保が追い付かない。残業が増加して従業員が疲弊している。

	○	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・旅行や飲食等への人の動きが出てきており、販促広告の出稿も少しずつ増えてきている。前年がひどかっただけに比較にはならないが、新型コロナウイルス感染症の発生前の50%程度まで戻ってきていると思う。
	○	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注残も多く、商談や引き合い件数も増加傾向にある。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原材料の値上がりが多く四苦八苦しているが、受注、売上は変わらずに推移している。
	□	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・3か月間では売上の変化は少ない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・サプライチェーンのトラブルが解消されず、受注残は増えているものの、思いどおりの生産、納入ができない状況が続いている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子を見ると、第2四半期の生産計画と同様に推移している。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・冬物家電、電気カーペット、石油ストーブ、ファンヒーター、こたつ等の物量が、前年並みの輸送量となっている。輸送コストの上昇による運賃値上げをしている取引先も多少は出てきている。しかし、ドライバー不足や車両確保の厳しい状況は続いている。
	□	経営コンサルタント	それ以外	・コロナ禍の状況や、ウクライナ戦争を原因とする石油製品、エネルギー製品やその他諸物資調達難と価格高騰の状況が払拭されないなか、地域企業の経営業績は改善しておらず、投資活動は停滞気味である。さらに、それら地域企業に雇用されている人々の生活水準も大きく好転しているわけではなく、消費行動も活発になっていない。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・動きがあるとしても、当地は田舎の小さな街なので、回答を変えないからやや良くなっている、あるいはやや悪くなっていると変えるほどの動きは余りない。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・人の動きが良くなり、売上は一時期よりは伸びてきている。ただし、材料費等、価格が高騰しているため、収益は余り改善していない。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当社の得意先は40社ほどあるが、通常、半数以上の会社から毎月何らかの受注がある。今月になって全く注文がなかったり、注文数が減少した会社が多く出てきている。
	×	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。今期公共工事は前年比10%減と厳しく、当社売上も前期比10%減で、今期決算は厳しくなると予想する。
	×	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・9月で清掃や設備管理業務の契約が解消となった取引先が出ている。現在の取引先も、値上げ交渉に応じてくれるところはあるものの、取引解消の金額の方が大きく、売上、利益共に減少している。
雇用 関連 (北関東)	◎	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・当社の顧客である宿泊施設でも、かなり稼働率が上がっている。ただし、人手不足のため、抑えた稼働になっているところもある。新型コロナウイルス感染症がある程度落ち着き、大分人が動いている感じがする。以前に比べると、物販もかなり忙しいようである。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月と比べ新規求人数は、建設、小売、飲食店、医療福祉等で増加がみられ、全数で14%の増加となっている。また、前年同月比では20.4%と12か月連続して増加しており、求人数は堅調に推移している。
	□	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・当地で国体が開催されていたこともあり、衣料品、生鮮食料品も含めた食料品等への購買が見られている。製造業は、工場関係での稼働率をみても低調である。特に、自動車関連ではどうしても車両部品が整わないので、なかなか向上していかない。住宅関連の改造、改築、外装等は伸び悩んでいる。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・職種にかかわらず、求人依頼数に大きな変化はない。業種でみると、サービス業や製造業を中心に求人数が多く、求職者が選択できる状況である。

□	人材派遣会社 (管理担当)	求人数の動き	・派遣求人数に変化はない。時給が高い求人に人が集まり、時給の低い求人には応募が少ない傾向等にも変化はない。
□	学校 [専門学校] (副校長)	周辺企業の様子	・関係する業者との話でも、物によっては、不足して困っていたり、価格が高騰し金銭的に厳しい状況で、経済は動いてきているものの、付随した部分で足を引っ張る傾向がある。
▲	—	—	—
×	*	*	*